

観音の里の 祈りとくらし展Ⅱ

— びわ湖・長浜のホトケたち —

15のホトケたちが堂外初公開

観音の里から50のホトケたちが、東京にやってくる。



木造伝千手観音立像
〔黒田観音寺蔵〕

観音の里の 祈りとくらし展Ⅱ

—びわ湖・長浜のホトケたち—



◆ 開催主旨

長浜市には、130を超える観音をはじめとするたくさんの仏像が伝わり、古くは奈良・平安時代に遡るものも多くあります。また、この地域は、戦国時代には「近江を制する者が、天下を制す」と言われ、幾多の戦乱や災害に見舞われましたが、そのたびに、地域住民の手によって観音像は難を逃れ、今日まで大切に守り継がれてきました。

これらの仏像は、大きな寺社に守られてきたものではありません。地域の暮らしに根付き、そこに住む人々の信仰や生活、地域の風土などと深く結び付きながら、今なお大切にひそやかに守り継がれています。

この展覧会では、このようなホトケたちの優れた造形とともに、こうした精神文化や生活文化を「祈りの文化」として紹介し、長い歴史の中で守り継がれてきた地域に息づく信仰のこころを全国に発信していきたいと考えています。

歴史・文化に彩られた北近江の長浜、この地に息づく「祈りの文化」と「観音の里」の魅力を通して、一人でも多くの方に、ホトケたちとそれを守る人びとの姿を感じ取って頂ければと考えています。

◆ 開催概要

名称：観音の里の祈りとくらし展Ⅱ—びわ湖・長浜のホトケたち—

会期：2016年（平成28）7月5日（火）～8月7日（日）

※「平柳田中コレクション展（仮称）」（地下2階展示室）と同時開催

会館時間：午前10時～午後5時（入館は閉館午後4時30分まで）

休館日：月曜日（ただし、7月18日は開館）、7月19日

会場：東京藝術大学大学美術館 3階展示室（東京・上野公園）

主催：東京藝術大学、長浜市

観覧料：一般 1,200円（1,000円）

（予定）高校・大学生 700円（600円）

※中学生以下は無料

※障害者手帳をお持ちの方とその介助者1名は無料

※（ ）は20名以上の団体料金

※団体観覧者20名につき1名の引率者は無料

※本展をご覧のお客様は、当日に限り同館同時開催「平柳田中コレクション展（仮称）」を無料でご覧いただけます。

一般お問合せ：ハローダイヤル 03-5777-8600

滋賀県長浜市総合政策課 0749-65-6505

Facebook：www.facebook.com/nagahamakannon2016

Twitter：@nagahamakannon

東京藝術大学大学美術館

〒110-8714 東京都台東区上野公園 12-8

【交通案内】

JR上野駅公園口、東京メトロ千代田線根津駅より徒歩10分
京成上野駅、東京メトロ日比谷線・銀座線上野駅より徒歩15分
駐車場はございませんので、お車でのご来場はご遠慮ください。



❖ ホトケたちのふるさと・長浜市

長浜市は、滋賀県の東北部に位置し、周囲には伊吹山系の山々と、ラムサール条約の登録湿地でもある琵琶湖が広がっています。市の中央には、琵琶湖に注ぐ姉川や高時川、余呉川等により形成された豊かな湖北平野と水鳥が集う湖岸風景が広がり、県内でも優れた自然景観を有しています。

平成18年、平成22年の市町合併により、人口約12万4千人、面積は680.79km²(琵琶湖を含む：県内第1位)となり、これまで以上に歴史や文化、自然や観光など、さまざまな地域資源を有することになりました。

竹生島や己高山などの山岳寺院、小谷城跡、賤ヶ岳・姉川の古戦場、国友鉄砲の里、北国街道や北国脇往還など交通網、それに、ユネスコ無形文化遺産登録候補の長浜曳山祭や太鼓踊りなどの伝統芸能、また、琵琶湖や里山などの自然環境、これら長浜市が持つ歴史と風土の全てが、「観音の里」と言われる暮らしに根ざした信仰文化を育んできたのです。



❖ 「観音の里」—歴史とゆえん—

仏教文化財の宝庫である長浜市には、ことに観音菩薩像が濃密に分布し、集落の数に匹敵するほど多くの観音像が今なお村人たちによって大切に守られています。

平安時代に遡る古像も多く、井上端著「星と祭」・水上勉著「湖の琴」の舞台となるなど広く紹介され、近年は「観音の里」と称されて、四季を通じて全国各地から多くの方々が見学に訪れます。

この地域はかつて、北東にそびえる己高山(標高923m)を中心として繁栄した仏教文化圏に属していました。応永14年(1407)、天台宗の法眼春全によって記された「己高山縁起」(鶏足寺蔵)によると、「この山は近江国の鬼門にあたり、いにしえより修行場であった。そこへ行基(668～749)が訪れて仏像を刻んで寺を建て、また泰澄(682～767)が修行場としたといい、のちに最澄(766～822)が訪れ“白山白翁”と名乗る老人の勧めによって再興した」とあります。

古代より霊山と崇められてきた己高山は、交通の要所にもあたることから、平安時代には中央仏教と並んで北陸白山十一面観音信仰の流入があり、さらに比叡山天台勢力の影響を強く受け、これらの習合文化圏として観音信仰を基調とする独自の仏教文化を構築したことが窺われます。

平安時代以降、天台傘下として己高山を中心に栄えた長浜の寺々は、室町期頃には弱体化し、代わって浄土宗・曹洞宗・浄土真宗・時宗らのいわゆる新仏教が農民勢力の台頭に併せて勢力を伸ばし、戦国の動乱期にいたって、さらに大きく変容しました。村々にあった天台寺院の多くは衰退して無住・廃寺化し、そこに残された尊像たちは、宗派・宗旨の枠を超越して、村の守り本尊として民衆に迎えられました。戦乱の焼討ちにあった際は、村人たちが観音像を川底に沈めたり、地中に埋めたりして難を逃れ守ってきたと伝えられています。

そして今日なお観音信仰はこの土地に息づいています。制作年代の新旧や文化財指定の有無、造形的な巧拙や損傷の有無等を越えて、それぞれの村人たちは自分の村のホトケたちに対して、限りない誇りと親しみを持って手厚く守っています。観音像をはじめとする指定文化財が多く存在するだけでなく、これらを献身的に守り継いできた民衆による信仰の歴史と、村人たちの生活の一部となって残る精神文化や生活文化こそが、「観音の里」と称されるゆえんです。



❖ 展覧会のみどころ

I 日本屈指の観音の里・長浜から約 50 軀の仏像が一堂に

奈良・平安時代まで遡る貴重な観音像から、戦国時代の要所として幾多の戦火をくぐりぬけた観音像など 130 を超える仏像が伝わる、日本屈指の観音の里・長浜。その長浜から、重要文化財 15 軀を含む約 50 軀の仏像が一堂に会して展示されます。そのうち「伝千手観音立像」（黒田観音寺）、「十一面観音立像」（医王寺）など、15 軀の仏像は堂外初公開。これほどの規模で、一度に長浜のホトケたちに会えるまたとない機会です。



▲十一面観音立像
木之本町大見 医王寺蔵

II 中世の古文書なども展示

琵琶湖最北端に位置する集落・菅浦では、中世の村落共同体「惣」の文書 1,200 点余りを伝えてきました。神仏への信仰に裏打ちされた村落共同体の結束が読みとれるこれら観音の里に伝わる古文書も展示します。



▲菅浦と大浦下庄堺絵図
西浅井町菅浦 須賀神社蔵

III “観音の里長浜”の信仰文化や村の様子を紹介

観音の里といわれ「信仰」を大切にしてきた地域の取り組み、観音を守る村や人々の様子をご紹介します。地域の暮らしに根付き、そこに住む人々の信仰や生活、地域の風土などと深く結び付きながら、観音をはじめとする諸像を今なお大切にひそやかに守り継いでいる、歴史とその祈りの文化を感じてください。



▲観音の里の信仰文化を紹介する
パネル展示（前回の様子）

前回平成26年3月21日～4月13日開催の
「観音の里の祈りとくらし展 —びわ湖・長浜のホトケたち—」の様子



長浜市で代々守り継がれてきた、重要文化財を含む 18 軀の観音像とともに、長浜に息づく精神文化や生活文化である「観音文化」をご紹介します。



約 3 週間と短い期間にも関わらず約 2 万人が来場し、暮らしの中にとけこんだ観音像に感銘を受けたアンケートはがきが 3 千通を超えるなど、大きな反響を呼びました。

主な出展作品の紹介

1章 | 観音像と村人たち

「観音の里」と呼ばれる湖北の観音像と、それらを取り巻く人びととの関わりを紹介します。



量感のあるたくましい上半身と、絞り込まれた下半身、極めて深く彫り込まれた丸みのある太い衣文線が特徴。一木造で内割を施し、18本の腕をもつことから准胝観音ともいわれる。平安時代前期（9世紀中頃）の作。黒田観音寺は現在臨済宗寺院だが、3人の世話方を中心とした木之本町黒田の集落の人びとによって守り継がれている。

重要文化財・堂外初公開

伝千手観音立像
木之本町黒田 観音寺蔵

木造 素地 像高200.0cm 平安時代



▲黒田観音寺の様子



「星と祭」にも登場する等身の十一面観音像。半球状の双髻から、現状彫形に掘削された蓮肉まで一木造とし、内剝は施さない。量感のある体軀に彫られた翻波式衣文や、逆三角形を3つ重ねた衣の折り畳みは古様で、平安時代前期（9世紀後半）の作。近代に長浜の古美術商から買い求めたというユニークな伝承をもち、木之本町大見の集落の人びとによってひそやかに守り伝えられている。

重要文化財・堂外初公開

十一面観音立像

木之本町大見 医王寺蔵

木造 漆箔 像高145.4cm 平安時代



曹洞宗寺院洞寿院の飛び地境内にある東林寺観音堂に安置され、33年に一度開帳される秘仏の聖観音像。素地仕上げの等身の体軀は、ほぼ全身をカヤ材製の一木造とし、内剝を施さない。背面に建保4年（1216）の造像墨書銘を記す鎌倉時代の基準作例で、地方性豊かな表情はこの地域の仏師の作を思わせる。東林寺親人・六所神社氏子総代らを中心とした管首自治会が維持・管理し、まさに今年が御開帳の年にあたる。

重要文化財・堂外初公開

観音菩薩立像

余呉町管首 洞寿院蔵

木造 素地 像高172.7cm
鎌倉時代（建保4年・1216）

2章 | 信仰に彩られた仏たち

薬師信仰と天台宗

観音と並んで現世利益的な信仰を集めた薬師信仰と、平安期の湖北地域に大きな影響を与えた天台宗を紹介します。



真宗大谷派充滿寺の飛び地境内にある薬師堂に安置される伝薬師如来像。阿弥陀来迎印を結んでいるが、村では薬師如来と伝えられてきた。ケヤキの一木造。平安時代中期、10世紀頃の作。漣肩の袈衣を胸元でU字に結び、均整のとれた穏やかな面相、流麗な衣文の表現など、当時の近江における天台薬師の特徴をよく示している。現在は、地元の老人会で構成された奉賛会の人々が、毎日交代で維持管理をしている。

重要文化財

伝薬師如来立像

高月町西野 充滿寺蔵（薬師堂安置）

木造 漆箔・古色 像高159.4cm
平安時代

阿弥陀信仰から浄土真宗へ

浄土教の影響を受けて発展した阿弥陀信仰から、真宗王国といわれる湖北地域での浄土真宗の広まりについて紹介します。

光明本尊は、名号と祖師像等を組み合わせた、浄土真宗における初期の本尊で、仏光寺派寺院に多く伝来する。湖北地方では、蓮如（1415-99）以降、本願寺勢力が隆盛するが、それ以前は仏光寺派が光明本尊や絵系図を用いて庶民に分かりやすく布教し教勢を拡大していた。描線や底彩法などにすぐれた面技を示していて、南北朝時代末期から室町時代初期の作と考えられる。現在、湖北・長浜は浄土真宗王国と呼ばれるほど、真宗信仰が盛んだが、その原初的な信仰形態を示している。法光寺門徒の法要に、現在も使用される。

高浜市指定文化財

光明本尊

高月町西野 法光寺蔵

絹本着色 縦160.8cm×横96.1cm
南北朝時代末～室町時代初頭



真言宗と豊山派寺院

真言密教が影響を与えた仏像の作例と、新義真言宗に転宗した寺院を紹介します。



真言宗豊山派舎那院の秘仏本尊で、三目六臂の三尺愛染明王像。本面と獅子冠には玉眼を嵌入し、目頭を尖らせた細く鋭い眼差しが感情を抑えた静かな怒りを思わせる。彩色や鍍金を多用し、6臂の取り回しや体軀の肉付けも自然で、極めて精緻で工芸的に優れた鎌倉時代後期（13世紀後半）の作。舎那院は、隣接する長濱八幡宮の神宮寺であった新放生寺の別院の一つとして学頭職を務め、長浜開町の祖である羽柴秀吉が保護再興した。

重要文化財・番外初公開

愛染明王坐像
官前町 舎那院蔵

木造 彩色 像高49.4cm 鎌倉時代

3章 | 村人が伝えた神と仏たち

中世以降の村の自治のよりどころとして、また祭礼の中心として仏像や神像が果たした役割を紹介します。



争いに当たって作成されたものだが、菅浦の中世景観を描いた絵図として著名である。なお、菅浦で守られてきた観音像・阿弥陀像も、本展に出陳される。

重要文化財

菅浦与大浦下庄堺絵図
西浅井町菅浦 須賀神社蔵

紙本着色 縦91.5cm×横62.3cm
鎌倉時代後期～南北朝時代

長浜市の北西部、葛籠尾先の西に位置する菅浦は、中世の村落共同体「惣」の文書1,200点余りを伝来してきた村として知られる。この文書群からは、神仏への信仰に裏打ちされた村落共同体の結束を読み取ることができ、こういった中世以来の住民の思いが、村持ちの仏を現在まで守り伝えてきた精神的背景と言えるだろう。本図は、隣村の大浦と、日指・諸河と呼ばれる田地の所有権めぐる境界

奥びわ湖に浮かぶ竹生島は、古くから西国三十三札所霊場として、また弁才天信仰の聖地として崇められ、当地の戦国武将浅井氏も篤く信仰した。本像は、蓮華会法要に奉納され

た現存最古の弁才天像。頭上には、翁面白蛇身の宇賀神を戴き、前面に鳥居を配した宝冠を戴せる8臂の姿。像底の銘記から、坂田郡平方庄（現長浜市平方町）の仏師・重清が造ったことがわかる。奉納者・制作年・仏師ともに判明する、中世における湖北の信仰史を考える上で貴重な遺品。



長浜市指定文化財

弁才天坐像
早崎町(竹生島) 宝殿寺蔵

木造 彩色 像高38.5cm
室町時代(弘治3年・1557)



問い合わせ

「観音の里の祈りと暮らし展Ⅱーびわ湖・長浜のホトケたちー」

長浜市役所総合政策部総合政策課

TEL:0749-65-6505 FAX:0749-65-4006

E-mail:sougou@city.nagahama.lg.jp